

塚ノ杵池とその周辺の野鳥

高 柳 和 江

塚ノ杵池は、猪高緑地の北端に位置しまわりは雑木林に囲まれています。1984年1月から時々塚ノ杵池を回っていますが、まわりの林が日常の雑音を消してくれて、落ちついた雰囲気の良い池です。「ケレケレケレ」と言うカイツブリの声が聞こえたり、池面をスーと飛ぶカワセミの姿が目に入ったりします。初夏から夏にかけてはツバメが飛び、時には30余羽を数えたこともあります。きっと、ツバメの餌となる昆虫が多いのでしょう。またヒクイナなどの鳥にとっては、池北東の水田や休耕田が生息に重要な役割をはたしていると思われます。本年5月から8月までの調査では、ウシガエルの声が聞こえたり、アブラゼミやツクツクボウシの音が賑やかだったり、アカトンボ類がいっぱい飛んでいたりして、鳥よりも他の生き物に目がいきがちでした。9月にはイタチと出合ったりして、池周辺を歩いていると生物相の豊かさを肌で感じます。

今まで私が塚ノ杵池および周辺で観察した野鳥は次の36種です。じっくり観察すればもっと多くの野鳥が確認できるでしょう。なお◎印は5月～8月に観察したものです。

＜水辺に関連の深い野鳥＞

カイツブリ・◎アマサギ・コサギ・カルガモ・ホシハジロ・◎ヒクイナ・カワセミ・キセキレイ・ハクセキレイ・◎セグロセキレイ・オオヨシキリ

＜周辺の林などの野鳥＞

◎トビ・ハイタカ or ツミ(註)・◎ゴジュケイ・◎キジ・◎キジバト・◎ツバメ・◎コシアカツバメ・◎ヒヨドリ・◎モズ・ヒレンジャク・ジョウビタキ・ツグミ・◎ウグイス・◎エナガ・シジュウカラ・◎メジロ・◎ホウジロ・カシラダカ・アオジ・◎カワラヒワ・◎スズメ・◎ムクドリ・カケス・◎ハシボソガラス・◎ハシブトガラス

(註) ハイタカまたはツミのどちらとも識別できなかった。

なお1986年名古屋市発行「名古屋の野鳥」によれば、昭和59年4月から60年3月までの期間に猪高緑地全体で54種の野鳥が記録されています。本調査研究の一部は、トヨタ財団身近な環境をみつめよう第4回研究コンクールからの助成を受けた。

“都会の自然を守る”シンポジウム

市内では残り少なくなった良好な自然環境を残す猪高緑地の一角、名東社会教育センターにおいて、11月16日、猪高緑地の自然を守る会主催のシンポジウムが開かれました。内容は(1)梅津濟美(人類生き残り運動)“自然の尊重は人間の尊重”(2)いわつよし(平和公園周辺住民の会)“平和公園を中心とした自然保護運動”(3)奥田陸子(天白公園を考える会)“自然と人間の共有共栄を目指す天白公園づくり運動”(4)鈴木達夫(名古屋ため池の自然研究会)“都市のため池の存在意義について”(5)三浦守司、平塚雅朗(猪高緑地の自然を守る会)“都市の中の自然保護の拠点、猪高緑地の意義と自然保護活動”(6)高橋敏郎(都市計画研究所)“都市における自然保護と生活環境の保全について”話された(鈴木)。